

平成 27 年度 JICA 研修 災害に強いまちづくり戦略

- JICA Strategy for Resilient Societies to Natural Disasters -FY2015



最終日 閉講式にて



研 修 期 間：平成 28 年 1 月 11 日～2 月 27 日 (7 週間)

研 修 場 所：神戸市/岩手県/宮城県/和歌山県

研 修 内 容：各国の状況に即した災害に強いまちづくり戦略を立てるための参考に資するため、災害マネジメントサイクル (Disaster Management Cycle) の視点から、初動・応急対応 (Relief・Response)、復旧・復興 (Recovery)、減災 (Mitigation)、予防 (Preparedness) の各フェーズにおける有効な手法・取り組みを学ぶ。

参加研修員：8ヶ国 10名 (アルジェリア、バルバドス、チリ、エジプト、コソボ、モザンビーク、フィリピン、ブータン)

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)からの委託を受け、公益財団法人 神戸都市問題研究所のご協力の下、「災害に強いまちづくり戦略」研修を実施しました。自国で防災計画策定に関わる機関の行政官などを8ヶ国から迎え、8週間の研修を行いました。

本研修は、日本の過去の大災害における教訓・経験により、明らかになった自然災害に強いまちづくりの要素を研修参加国と共有することにより、各国の災害被害の軽減に役立ててもらい自国の災害に強いまちづくりの為の防災計画策定に活かすことを目的とする研修です。また、研修は、災害マネジメントサイクルをもとに、「初動・応急対応」、「減災」、「復旧・復興」、「予防」「防災教育」について各週ごとに学ぶように構成されており、研修員はそれぞれのテーマに沿って様々な取り組み等について、神戸市関係者や他、地方自治体関係者などから講義や視察に参加しました。

注) 災害マネジメントサイクル：災害応急対応→復旧・復興→予防・減災→事前準備といった、防災活動を局面に分けた構造のこと



~~~~~研修を振り返って~~~~~



昨年度に引き続き2年目として実施した当研修は計7週間にわたり、神戸市内の各機関、また市外でも、東日本大震災の被害を受けた岩手県、宮城県、また近い将来に起こるといわれている南海トラフ巨大地震で被害が予想されている和歌山県海南市を視察しました。

研修前半では、1月17日に東遊園地で開催された阪神・淡路大震災の21年追悼行事「希望の灯り」に参加したり、各研修員による自身の職務内容や、自国の災害情報などを共有してもらう「ジョブレポート発表会」を実施し、研修員間でお互いの国の状況について情報共有をしました。また日本で最初にできた、防災を学ぶ科である、環境防災科をもつ兵庫県立舞子高等学校を訪れ、学生みなさんに防災活動内容を発表してもらったり、先生より科のカリキュラム説明をしていただきました。(写真①)

今回の研修では、各週の最終日に学んだ内容を振り返る時間を半日設け、研修員たちに何を学んだか、また学んだことが自国でどのように活用できるかなどを書き上げてもらい、みんなで共有しました。講義や視察を通して知識を積むだけでなく、学んだことを整理する時間をもつことで、よりよい理解につながったと思います。(写真②)



①兵庫県立舞子高等学校にて環境防災科のカリキュラム等について先生より説明を受ける研修員達



②JICA 関西にて、これまで学んだ講義内容などを研修員同士で振り返っている様子

2月には、3泊4日で東北を視察し、岩手県宮古市田老地区、大槌町、南三陸町、東松島市を訪問し、行政の方の講義、住民の語り部の方のお話から、当時の被災状況、その後の復興計画や復興段階での課題などをお話いただきました。東松島市では、住民の方（奥松島観光ボランティアの会のメンバーの方々）との意見交換の時間を設け、研修員から住民の方へ、当時の避難状況についてや、地区内での防災訓練、また観光業は被災前後でどう変化したのかなど、様々な質問を行いました。また、住民の方からも研修員に対して、研修員の国では、災害後にどんな復興計画がなされているのかという質問があり、チリからの研修員が持参していた復興の様子ビデオを上映しながら説明しました。このように、研修員と住民の方々が、お互いの状況を共有しあうことができ、相互に有意義な時間をもつことができました。(写真③)

研修の後半は、神戸の震災後の復興過程で、JR六甲道駅南側・北側で実施された再開発事業や土地区画整理事業について講義を受けました。そして、その講義で得た知識を元に、研修員たちならJR六甲道駅南側・北側の復興計画をどう作成するかワークショップ形式で取り組んでもらいました。研修員の中には、都市計画を業務とする研修員や、インフラ整備を業務とする研修員がおり、その研修員を中心に道路をどう配置するか、公園をどこに配置のかなどみんなで話し合いながら、自分たちの復興まちづくりの計画を作り上げていました。(写真④) 完成後は、出来上がった復興計画に対し、神戸市で当時各事業に関わられていた関係者に評価をしていただき、また実際の再開発事業、区画整理事業で整備された六甲道エリアを視察しました。



③宮城県東松島市にて、住民の方と意見交換をしている様子



④2グループに分かれて JR 六甲道エリアをモデルに、まちづくりワークショップに取り組む様子

研修の後半で研修員達は、神戸の各小学校地区単位で結成されている住民による自主防災組織「防災福祉コミュニティ」（通称、「防コミ」）について、防コミの統括をされている消防局の担当者から、結成背景や行政から防コミへのサポート内容についての講義や、実際に灘区魚崎町で活発に活動している「魚崎町防災福祉コミュニティ」のメンバーの方々から、活動内容について講義いただき、各防コミが所有している資機材庫を実際にみせてもらい、使い方を体験し、住民がいかに災害に備えて活動をしているのか理解することができました。（写真⑤）

また近い将来に起こるといわれている南海トラフ巨大地震で被害が予想されている和歌山県海南市を訪問した際は、海南市役所の方から南海トラフ巨大地震対策についてご説明いただき、ハード対策として設置されている避難広場や黒江防災コミュニティセンターを視察しました。（写真⑥）和歌山でも住民による自主防災組織が結成されており、「昭成町自主防災会」のメンバーの方に活動内容をお話いただきました。

こうして講義・視察で聞いた事・見た事をもとに、研修最終日には、10名の研修員全員が、アクションプラン（研修員自身の業務上抱える課題解決のための行動計画）を作成し、日本で学んだことを自国でどのように活用し、実践していくかについて、発表しました。世界中で自然災害が多発する現在、研修員がこの研修で得た知識・経験を今後、自国の災害に強いまちづくりのために活かしてくれることを期待しています。



⑤魚崎町川井公園にて、魚崎町防災福祉コミュニティのメンバーより資機材の使用法の説明を受けた後、訓練を体験する様子。



⑥和歌山県海南市にて、津波に対する高台の避難場所への視察の様子

研修担当：事業課 丹後 千里

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

研修指導機関：公益財団法人 神戸都市問題研究所

講義/視察先：神戸市、兵庫国際交流協会、アジア防災センター、人と防災未来センター、被災地NGO協働センター、FMわいわい、大阪府立大学、K-T E C、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク準備会(JVOAD)、国際緊急援助隊事務局、兵庫県広域防災センター、ひょうご震災記念 21 世紀研究機構、(社)南三陸町観光協会、(社)宮古観光協会、大槌町復興局、東松島市 移転対策部、野田北ふるさとネット、森崎建築設計事務所、防災インターナショナル、和歌山県海南市役所総務部、和歌山県海南市昭成町自主防災会、大阪管区气象台、兵庫県立大学、奥松島観光ボランティアの会、京都大学大学院、国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所、神戸すまいまちづくり公社、神戸市消防局、魚崎町災福祉コミュニティ、兵庫県立舞子高等学校、株式会社 Smart Presen、六甲道駅北地区公園管理会

【順不同、敬称略】

～研修員の声『神戸を訪れて(要約)』～Participant's Voice 『VISIT TO KOBE』～

国名：コソボ 名前：Mr. BEQIRI Alush 所属：緊急事態管理庁 予防部



Nature - the land and the sea, then the above construction and accompanying infrastructure (roads, railways, parks, playgrounds, waste water and waste, monuments etc.), it is obvious modernization of society, bridges see as art and science - are magnificent.

People - polite, respectable, accurate work - ambitious adhere to traditional ethics, wishing to help in different case of guests as necessary.

Kyoto place of culture and tradition, magnificent temples, traditional dress and enrich their behavior.

A program of training course is good duration enough. Subjects are appropriate for teaching, teaching staff, staff management and conductor staff is excellent - only compliments, lectures were with the many examples that make learning easier for understand. Visits to places of event, specify the workshops of the lessons are a very important part of the course. Course is useful; I have repeated and expanded knowledge in the field of emergency management. Best practices and experiences from this program will try to disseminate and apply in my country.

Thank You very much,

All the best,

自然やインフラ設備（道路、鉄道、公園、水道やごみ処理場など）はすばらしく、近代的な社会を象徴するもので、橋などを例にとってみても科学のすいをあつめ、芸術的でもあるようにすら見えます。

日本人は、礼儀正しく、尊敬すべき、そして仕事が正確であり、伝統を大事にしつつ、またさまざまな人に対して必要に応じて手を差し伸べることのできる人々だと思います。

京都は、文化と伝統の街であり、壮大な寺院や、着物やそれに相応しい人々の所作に印象を受けました。

講義や視察で学んだことの多くは、実際の経験によって得られた知識や教訓であり、非常にわかりやすい内容でした。研修の中でも、被災地域への視察旅行や実例をもとにした復興まちづくりのワークショップなどは特に重要なもので、研修を通じて有益なことを学ぶことが出来ました。この研修での経験を国に帰って広めたいと思います。

ありがとうございました。

(以上)

~~~~~